

令和4年度 第2回恵那市地域包括支援センター 運営協議会 会議録

日時：令和5年2月16日（木）

午後2時30分～

場所：東野コミュニティセンター

- 1 開会
- 2 委嘱書の交付
- 3 あいさつ
- 4 自己紹介
- 5 会長及び副会長の選出
- 6 恵那市地域包括支援センター運営協議会 議事
 - (1) 令和3年度地域包括支援センター事業評価について
 - (2) 令和4年度 中間報告について
 - (3) 介護予防サービスプラン作成業務の委託先について
 - (4) 令和5年度 事業実施方針、事業計画について
 - (5) 地域包括支援センターの運営体制の見直しについて
- 7 閉会

傍聴者なし

1 開会

■事務局（進行） 定刻なので開会する。委員名簿の 14 番横光委員、15 番池戸委員は所用により欠席。

この協議会は地域包括支援センターの公正及び中立性の確保と、支援センターの円滑かつ適正な運営を図るために設置する。一、支援センターの設置等に関する事、二、支援センターの運営及び評価に関する事、三、介護保険に関する施策の実施状況の調査ならびに評価に関する事、これらを協議いただく。

2 委嘱書の交付

■事務局（進行） 委員名簿の 8 番の田立菊子様が今月から就任された。机上に委嘱書を配布。

3 あいさつ

■事務局（進行） 医療福祉部長からあいさつをする。

■医療福祉部長 本日は御多忙の中出席賜りありがとうございます。日頃よりご支援、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。委員の任期は令和 4 年 7 月から、田立委員は令和 5 年 2 月から、令和 6 年 6 月までの 2 年間で、田立委員のほかの委員には、第 1 回は署名議決だったので資料とともに委嘱書を交付している。改めてよろしくお願いします。

平成 12 年度に介護保険制度がスタートしてから 22 年が経過した。今年度は第 8 期介護保険事業計画の 2 年目で、2025 年に団塊の世代が 75 歳を迎え、2040 年には団塊ジュニアが 65 歳を迎える、超高齢化社会を見据えての計画だ。恵那市は 1 月 1 日現在の高齢者は 1 万 7009 人、高齢化率 35.76%。串原、上矢作町では 50%を超える地域もある。また、75 歳以上の後期高齢者は高齢者の 54%を占めている。恵那市としては、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で暮らしを続けられるように、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの推進の重要な施策の一つとして取り組んでいる。地域包括支援センターと地域の関係者が一緒になって高齢者を支えていけるためにどのようなことをどこまでできるか考えていく必要がある。本運営協議会は公正かつ中立性の観点から、客観的に事業の運営について検討・協議する場としての役割がある。本日は令和 4 年度の間接報告をする。趣旨を理解いただき、忌憚のない御意見をいただき、今後の運営に反映したい。

4 自己紹介

■事務局（進行） 本来は昨年 7 月の第 1 回協議会で顔を合わせていただく予定だったが、書面決議であったため、本日が令和 4 年度初めての顔合わせとなる。簡単に自己紹介をお

願います。

(名簿に沿って自己紹介を行う)

■事務局(進行) このメンバーで進める。よろしくお願いします。

5 会長及び副会長の選出

■事務局(進行) 会長及び副会長の選出をする。立候補はあるか。

なければ事務局案を紹介してもよいか。

では、会長に、前回まで会長だった医師会代表の西脇委員、副会長に前回まで歯科医師会代表委員に就任頂いていたので、今回も藤岡委員にお願いしたい。いかがか。

[拍手する者あり]

■事務局(進行) では、西脇会長、藤岡副会長は席を移動してください。

西脇会長から御挨拶をいただく。

■会長 ずっとコロナでこの会をやらず、ちょうど7月、2月はコロナのピークがずっと来たときで、私たち病院関係、福祉関係の方が多いので、会議で何かがあってはまずいということで、ずっと書面だけにしていた。今回初めてこの会とコロナが少なくなるのが重なり、やっと開催できることになった。意見を頂きすばらしい会議にしたい。

6 恵那市地域包括支援センター運営協議会 議事

■事務局(進行) 議事に入る。これより、設置要綱第4条により、会長が議長を務めることになっている。西脇会長、よろしくお願いします。

■会長 (1) 令和3年度地域包括支援センター事業評価について

(2) 令和4年度 中間報告について説明をお願いします。

[事務局から資料に基づき説明]

■会長 質問はあるか。

■委員 「高齢者運転応援事業 返納するという勿れ」、とても面白いアイデアだと思う。道路交通法の改正で75歳以上の方が認知機能検査をやらなきゃいけないとか、かなりプレッシャーになっていて、認知症の疑いのある方は、専門医の診断を受けなきゃいけないということになる。そうするとその時点で返納する人が全国的には多いと聞く。こういう形でなにか場をもって安心することが大事だと思う。参加しているのは年齢的には75歳以上などの縛りがあるのか。

■事務局 基本は65歳以上で募集しているが、今の御時世では65歳以上はまだ働き手で、平日に参加できる人が限定される。70歳代後半から80歳代ぐらいの自分で運転してまだ自信がある人が参加している。

■会長 どんな声があるか。

■事務局 思ったより免許返納への緊迫感はなく、まだ余裕がある人が来る。運転能力テストをやってみて、これで年齢が出るので、70歳代の方が80、90歳が出ると、もう一回

もう一回と納得するまでやり、さらに自信を付けて帰っていく。認知症になりたくないという思いは誰しもあるようだ。また、認知症になった人を分析すると高血圧、糖尿病を持っている人が多いことがわかったため、認知症にならないために、何をしたらいいかということを知り、野菜を摂ること、塩分に気を付ける事が重要だと感じて帰った人もあった。

■会長 もう一点、「認知症になったらおしまいだ」という意識がまだ強いと思うが、これだけ高齢化が進むと、認知症の最大の要因は寿命が延びることなので、なって当たり前のことで、認知症になっても穏やかに暮らせる生活の条件を整える、支援することが地域や行政の役割だと思う。認知症の施策がいろいろあり、認知症当事者の声を聴く講演や座談会みたいな場をぜひ企画していただきたい。それが要望でもある。そんなことができるといい。

■事務局 カフェなどには認知症の本人も参加している。その方からも話を聞いている。座談会も今年度は実施した。

■会長 そういう人たちが今いっぱい本を書いたり、いろいろなところで発信している。認知症になっておしまいではなく、なってもこんなふうに住んでいけると。認知症になってもいろいろなことができるようになったとかいろいろな出会いがあるといっている人たちが本当に多くなっている。そういう声をまた届けていただく機会があるといい。

■事務局 認知症サポーター養成講座などでもその人の気持ちの部分も取り入れながらやっているが、日々の活動の中でも聴きながらやっていきたい。

■委員 私は4、5年前から地域で6、7人のサロンをしている。始めたときは、認知症で介護度が付いている方には声を掛けず、健康なお年寄りを集めたが、去年地域包括支援センターで主催した講演会の先生の話を知り、認知症で地域で暮らせるというところに刺激を受けて、去年から介護保険の対象になった認知症の高齢者の方にも、本人や家族に声を掛け、みんな顔見知りなので、来ていただくようにした。90歳以上ばかりだが、身近な人の顔を見るだけでいきいきする。認知症予防というより生きがい対策のようなものだ。

サロンをやるのに講師派遣を3回してもらおう。それと、社会福祉協議会で今年度保険を払ってもらえるようになった。今まで自分たちで5千円ぐらい払っていたが、それをみてもらえるようになったので、取り組みやすくなった。いつまで続くか心配だが、地域包括支援センターや社会福祉協議会の支援をいただきながら細々続けていきたい。

■事務局 今まで地域包括支援センターで申し込みしていた集いの場を今年度から地域包括支援センターと社会福祉協議会の申し込みを一本化した。そのため保険にも入れる仕組みになった。講師派遣事業も地域包括支援センターで3回、社会福祉協議会で6回分できるので、利用していただきたい。

■会長 (3) 介護予防サービスプラン作成業務の委託先について説明をお願いします。

[事務局から資料に基づき説明]

■会長 質問はあるか。

■会長 なければ(4)令和5年度 事業実施方針、事業計画についての説明をお願いします。

[事務局から資料に基づき説明]

■会長 意見はあるか。

こういう人数の設定は、コロナ禍で本当にそこを進めないといけないのかというのが問題になると思うが、結果としてあまり評価しなくてもいいのか。

■事務局 コロナにより参加が抑制されているのか、本当に利用する人がいないのか、内容を見ながら検討しないといけないと思っている。

■会長 (5)地域包括支援センターの運営体制の見直しについての説明をお願いします。

[事務局から資料に基づき説明]

■会長 意見はあるか。

■委員 今言われたような方法でいいと思う。このようにやってみたらどうか。よろしくをお願いします。

■事務局 地域の方にも話を聞いている中で、随時にすることはやむを得ないかもしれないという意見も伺っている。「一番大事なのは、相談場所がどこかが分かることだ」という意見も聞いている。元気なときは関心がないのでいくらチラシや通知を出しても受け止められない事もあると思うが、相談場所が分かるように周知したい。

■会長 これで議事を終了する。

7 閉会

■事務局（進行）

ただいま笠周地域の話をしたが、委員からの発言があったように、これで3年経ったのでこれまでの反省を踏まえて新しく体制を仕切り直し、またやっていく中で不具合やニーズがあれば、ときどきに対応していきたい。一番望まれる形を探りながら進めたい。

藤岡副会長から閉会の挨拶をいただく。

■副会長 急速な高齢化が進む中、当協議会の必要性がますます増えている。市民一人一人が不自由なく暮らせるように、行政や今日集まりの委員で当協議会を運営していきたい。これで終了する。

[閉 会]